

令和4年度 管理栄養士国家試験
出題基準(ガイドライン)改定検討会
報告書

(案)

令和5(2023)年〇月〇日

令和4年度 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)改定検討会

(注) 別添(管理栄養士国家試験出題基準)に関する部分は除く。

1 I. はじめに

2 管理栄養士国家試験は、管理栄養士として必要な基本的知識及び技能につ
3 いて的確に評価するために行われるものであり、管理栄養士の登録が全て国
4 家試験に合格した者に行われることとなった昭和 62 年度(第1回)の国家試験以
5 降、毎年継続的に実施されている。

6 現在、管理栄養士が活躍する場は、保健、医療、介護、福祉、教育など多様
7 な分野に広がり、高度な専門的知識と技能を持った管理栄養士の社会的な役
8 割はますます大きなものとなっている。管理栄養士が幅広い分野で第一歩を踏
9 み出すに当たり、専門職としての一定の資質を確保する上で、管理栄養士国家
10 試験は重要な役割を担うものであり、国家試験出題基準(ガイドライン)は、管理
11 栄養士国家試験の適切な範囲及び水準を明確に示すものである。

12 現行の管理栄養士国家試験出題基準は、令和元年度(第 34 回)以降の国家
13 試験に適用されているが、平成 22 年度に改定検討委員会において取りまとめら
14 れた際、出題基準は関連した法・制度の改正等に速やかに対応するため、おお
15 むね4年に一度改定を行い、内容の充実を図ることが望ましいとされた。

16 前回の改定から4年が経過することから、令和4年9月に管理栄養士国家試
17 験出題基準(ガイドライン)改定検討会を設置し、5回にわたり出題基準の改定
18 について検討を重ね、取りまとめたので、ここに報告する。

20 II. 改定に当たっての基本的な考え方

21 管理栄養士の主な業務の一つとして傷病者に対する栄養の指導がある中、
22 地域包括ケアシステムの構築・推進に向けて、個々人の生活の視点を踏まえた
23 きめ細かな対応が今後より一層重要になると考えられる。近年、個人及び地域
24 における栄養課題が多様化・複雑化しており、多職種連携による対応が多領域
25 で一層求められている中、効果的・効率的なアプローチとして、その重要性はま
26 すます進むと推測される。こうした中、複雑困難な個別案件や地域の栄養課題
27 に対し、栄養の専門職としてエビデンスやデータを基に、論理的思考により、最
28 適解としての栄養管理をいかに打ち出していけるか、それを多職種連携の中で、
29 他の職種にも分かる形で論理的に提案できるかといったことが一層問われてく
30 るものと考えられる。

31 今回の改定では、管理栄養士の今後の方向性を踏まえた上で、総論的事項
32 (多職種連携に必要な知識及び技能)及び科目別事項(関連法規、制度等の改
33 正への対応を踏まえた適切かつ効果的な栄養管理)について、見直しを行っ
34 た。

1 Ⅲ. 管理栄養士国家試験出題基準について

2 管理栄養士国家試験出題基準は、別添のとおりとする。

4 Ⅳ. 管理栄養士国家試験問題について

5 ○管理栄養士養成の教育との関係について

6 管理栄養士国家試験出題基準は、管理栄養士養成課程の教育で扱われ
7 る全ての内容を網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するもの
8 ではない。また、本出題基準は科目間の重複をできるだけ少なくして策定した
9 ものであり、管理栄養士養成課程の教育において科目間の重複を妨げるもの
10 ではない点に留意すべきである。

12 ○出題数及び出題数の配分、出題形式について

13 出題数及び出題数の配分については、引き続き現行を維持する。

14 出題数の配分については、各分野間の関連に配慮し、その重複を避け、分
15 野横断的な設問については、応用力試験として取り扱う(下表参照)。また、応
16 用力試験については、改定後の管理栄養士国家試験の実施状況を勘案し、
17 内容の更なる充実に向けて検討することが望ましい。加えて、近年の保健医
18 療分野の国際化の進展等を鑑み、基礎的な英語用語について、その理解を
19 確認するための問題を導入することが望ましい。具体的には、保健医療関係
20 職種に共通して広く用いられており管理栄養士も知っておくべき英語用語や、
21 管理栄養士の専門領域に係るものとして知っておくべき英語用語について問
22 うこととする。

23 出題形式については、正しいもの(5つの選択肢から1つの正解肢)を問う
24 方式を原則とすることが望ましい。なお、栄養管理を実践する上で必要な思
25 考・判断力を評価する問題では、最も適切なものを問うこととする。

26 表 管理栄養士国家試験 出題数の配分

社会・環境と健康	16問
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	26問
食べ物と健康	25問
基礎栄養学	14問
応用栄養学	16問
栄養教育論	13問
臨床栄養学	26問
公衆栄養学	16問
給食経営管理論	18問
応用力試験	30問
計	200問

28

29

○合格基準について

合格基準については、引き続き現行の合格基準を継続することが望ましい。

ただし、管理栄養士は栄養専門職として、多職種連携による栄養管理において、その専門性を十分に発揮することが期待されており、管理栄養士国家試験は、こうした知識や技能を確認するためのものとして重要な役割がある。

こうした点を踏まえ、栄養管理に関する知識や技能を問う問題については、多職種連携を前提に、栄養専門職としての専門性を的確に問える難易度となるよう引き続き留意するとともに、保健医療関係職種に共通して必要となる基礎的な知識等について他の保健医療関係職種の国家試験における栄養管理に関する出題状況を参考に、適切な難易度の問題を出題することが望ましい。

○今後の出題基準の見直し

超高齢社会の更なる進展や疾病構造の変化、栄養関連の学術の進歩、保健・医療・福祉・教育などに関連した法・制度の改正に速やかに対応するため、引き続き、おおむね4年に一度改定を行い、内容の充実を図ることが望ましい。

○過去に出題された試験問題の活用について

管理栄養士国家試験において過去に出題された良質な試験問題は、単純な正答の暗記による解答が行われないう、問題の趣旨が変わらない範囲で設問及び選択肢などを工夫し、活用することが適当である。

○今回改定した出題基準の適用について

今回改定した管理栄養士国家試験出題基準は、第38回国家試験(2024年2月実施予定)から速やかに適用することが望ましい。

V. おわりに

管理栄養士の活躍する領域は、保健、医療、介護、福祉、教育など多方面にわたり、それぞれの領域で多職種連携の下、高い専門性が求められている。このため、管理栄養士国家試験は、管理栄養士としての第一歩を踏み出す際の基本的知識及び技能についての的確に評価する役割を果たす必要がある。特に、個人や集団の栄養に関する課題に対し、効果的・効率的に取り組んでいく上で必要とされる知識、思考・判断力を的確に評価することがますます重要になると考えられる。こうした観点から、応用力試験問題の更なる充実を引き続き検討していくことが望ましい。

1 管理栄養士国家試験出題基準については、今後とも、管理栄養士に対する社
2 会的ニーズや期待を踏まえ、有意義な改定が行われるべきである。また、これと
3 連動して、卒前・卒後教育を含めた教育の質の向上が図られるべきであり、卒前
4 教育に関しては、厚生労働省の予算事業により検討された管理栄養士養成の栄
5 養学教育モデル・コア・カリキュラムも活用しつつ、取り組む必要がある。